

令和 4 年 7 月の解説（週間天気予報）

【7 月の天候状況】

上旬は、北日本と東・西日本日本海側は、高気圧に覆われて晴れた日が多く、北・東日本日本海側の日照時間はかなり多く、北日本日本海側の降水量はかなり少なくなりました。東・西日本太平洋側は、1 日から 2 日にかけては太平洋高気圧に覆われて晴れた日が多くなりましたが、3 日頃からは、台風第 4 号や低気圧、気圧の谷の影響で曇りや雨の日がありました。また、5 日は高知県で線状降水帯が発生するなど、3 日から 5 日にかけては西日本太平洋側を中心に大雨となりました。沖縄・奄美では、1 日から 4 日にかけて台風第 4 号の影響を受けましたが、その後は太平洋高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。北日本、東日本、西日本では、暖かい空気に覆われやすかったため、平均気温はかなり高く、特に北日本では平年差が +3.2℃となり、統計開始以降、7 月上旬として 1 位の高温となりました。また、1 日から 2 日にかけては東日本と西日本を中心に広い範囲で猛暑日となり、1 日は群馬県桐生市で 40.4℃など、アメダスを含む 6 地点で 40℃以上の日最高気温を観測しました。

中旬は、北日本、東日本、西日本と奄美地方では、前線や低気圧の影響で曇りや雨の日が多かったため、降水量は北・東日本太平洋側でかなり多くなりました。暖かく湿った空気が流れ込んで大気の状態が不安定となった日があり、各地で雷雨や大雨となり、猛烈な雨が降った所もありました。17 日は埼玉県で突風が発生し、18 日と 19 日は長崎県、山口県、福岡県、佐賀県、大分県で線状降水帯が発生しました。沖縄地方は、太平洋高気圧に覆われやすく晴れの日が続きました。また、暖かい空気に覆われやすかったため、沖縄・奄美の平均気温はかなり高く、平年差は +1.0℃となり、統計開始以降、7 月中旬として 1 位の高温となりました。

下旬は、北日本では、22 日から 24 日にかけては低気圧や前線の影響を受けやすく曇りや雨の日が多くなりましたが、26 日からは高気圧に覆われて晴れた日が多く、北日本日本海側の降水量はかなり少なくなりました。東北北部では 26 日ごろに梅雨明けしたとみられます。東日本と西日本では、高気圧に覆われて晴れた日が多くなりましたが、21 日から 22 日にかけては低気圧や前線の影響で曇りや雨となり、その後も湿った空気が流れ込んで大気の状態が不安定となって雷雨や大雨となった所がありました。沖縄・奄美では、26 日頃までは高気圧に覆われて晴れたため気温は高くなりましたが、29 日から 31 日にかけて台風第 5 号や台風第 6 号の影響を受けてまとまった雨が降りました。

【7 月の検証結果】

「降水の有無」の全国平均の適中率(3～7 日目平均)は、例年値(注)よりも 2 ポイント高い 69%でした。地方別の適中率では、北海道、東北、関東甲信、東海、九州北部、九州南部、沖縄の各地方で例年値を上回りました。最高気温の予報誤差(2～7 日目平均)は、全国平均で例年値よりも 0.3℃小さい 2.2℃で、東海、近畿地方で例年値と同じだった以外は、各地方で例年値よりも小さくなりました。また、最低気温の予報誤差(2～7 日目平均)は、全国平均で例年値よりも 0.2℃小さい 1.4℃で、沖縄地方で例年値と同じだった以外は、各地方で例年値よりも小さくなりました。

(注) 例年値は気象庁 H P (予報精度検証)内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【9月の週間天気予報の利用にあたって】

8月に比べ、9月は低気圧や前線が日本付近を通過しやすくなります。低気圧や前線が通過した後は北からの冷たい空気が流れ込みやすくなるため、晴れても日中の気温が8月ほどには上がりにくく、季節は夏から秋へと次第に変化していきます。また、この時期は昼と夜の気温の差も大きくなります。週間天気予報では、向こう一週間の最高・最低気温の予報を行っていますので、日毎の気温変化とともに、一日の間での気温差にも留意して体調管理等に気をつけてください。